

①精神的に未熟な親

4つの課題・支援方法

番号	課題	支援方法	主体
1	養育についての信念や理想がなく、精神的に未熟な親が増えている		
2	子育てに暴力を使う親がおり、決まって子どもは暴力的になる	あいさつ運動	子育て支援センター
3	当たり前のルール、感謝の念、人としての大事な部分を子どもに教えていない	乳・幼児期の段階での親の研修機会を設け、啓発する	子育て支援センター
4	無知、無関心、暴力	ママ・パパ教室、育児サークル、乳幼児健診、学童保育	
5	子育ての知恵や子どもの躰方法について	異世代交流の場をつくる	まちづくり推進協議会関係
6	親としての意識が薄く養育に対し否定的	長い目で見て、これからの事として考えた場合、出来るだけ早期より人としての教育に力を入れていく ・道徳教育の見直しと強化 ・妊娠時からの子育て教室 ・指導力ある地域となる様、啓発していく ・組織を機能させて具体的活動に取り組む	国、県、市、地域
7	親としての自信が無く子どもと向き合う精神的余裕が無い		
8	子どもよりも自分の意思が大切		
9	年齢にふさわしい一般常識が身につけていない		
10	基本的な生活習慣が確立されていない		
11	躰を教えられない	わかっているものと思込まないと、本当の実態を知った上で、なるべく少人数で丁寧に伝えていく場所をつくる 幼児期の親子対象より、もっと年齢の低い子ども(乳児や産後の人対象)と親に向けた支援する講座等	現在、柑子袋会館で6か月未満の乳児親子対象で「ふっくらふっくら」を開催しています。わらべうたを通じた子育ての知恵を伝えています。資料にはありませんでした。
12	躰方法を親が知らない		
13	精神的に未熟な親が増えた	研修	市
14	養育拒否の親が増えた	研修、子育てサークル	市
15	親は子育てに不安がある		
16	親は子育てに迷いがある		
17	子育てに悩む親		
18	自分自身の未熟さを自覚すること(気づかせること)	支援側のあたたかな目配り気配りが、自覚を促すので、支援側の研修が有効	市、NPO、地域、個人
19	暴力に頼るのではなく、言葉で互いに納得し合える関係を作り出せる力をつける	そのためには自分の気持ちを言葉で表現する訓練が有効⇒自助グループを作る	市、NPO
20	過保護、過干渉の親	子ども会活動への参画 毎日の生活の中で責任を持ってできる仕事をもたせる	市、地域
21	一人親家庭の増加	生活支援事業の実施(助成金の交付、就業支援など)	市
22	子どもの躰方法を親が知らない	子育てサポーター等のボランティアが連携して、子育ての悩み、課題、困難を抱える親の子育て相談	市
23	個人的志向が強く育児に拒否的な親	情報提供等を行う訪問型の家庭教育支援 繋がることの大切さを学ぶ場づくり	市
24	当たり前のルールを教えていない	子ども会活動の充実、親子スポーツ教室の開催	市、地域
25	基本的な生活習慣の軽視	産前産後の〇〇教室の義務化と内容の充実 「子どもを育てられる大人になるために・・・」	県、市 (病院との連携)
26	マナー・モラルの欠如	産前産後の〇〇教室の義務化と内容の充実 「子どもを育てられる大人になるために・・・」 中・高教育の見直し	
27	躰や養育等で必要最低限のノウハウがわかっていない	「早寝・早起き・朝ごはん」等、必要最小限の内容を キャッチフレーズにして啓発する	市 広報によるPR・子育て後援会の開催 (大切なのはシンプルに・継続的に啓発すること)

28	親自身に親という意識が乏しい	妻の妊娠時から夫へも人として親としての学習の機会をつくる	市・ボランティア
29	子どもがするようなことを親がする	子どもが生まれてから成長に応じて、親も成長するような学習機会とシステムをつくる	市(子育て支援課・生涯学習課)
30	親が親に躰をされていない	親の躰をする場と機会をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児をもつ親 ・就学前の子をもつ親 ・就学している子をもつ親 	市(子育て支援課・生涯学習課)
31	生命の大切さを親自身が十分な理解をしていない	虐待と生命の問題を考えさせる <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫・花・動物の生命を考え、触れさせる ・暴力は子どもの心をダメにすることを理解させる ・弱い人を思いやる心を持たせる体験 	市(生涯学習課)
32	精神的に短絡である	(直ぐキレル、楽な方を選択する、辛抱させない、集中力に欠け正しい判断が出来ない) 情緒・情操教育をじっくり進める	市(生涯学習課)
33	子どもに対する躰や関わり方に悩む親	親の悩みを聞いたり、サポートをする拠点づくり	市、地域、学校、その他全般的に連携して

②親力の低下

4つの課題・支援方法

番号	課題	支援方法	主体
1	一人親家庭の場合、仕事と家庭を一人でこなさねばならず、子どものことが不十分になる	放課後教室、キッズ教室	NPO法人 おおぞらみちくさクラブ
2	躰・ルール意識の低下、基本的な生活習慣、過保護・過干渉	ママ・パパ教室、育児サークル、乳幼児健診、学童保育	
3	経済的不安定	生活保護、給付金等	
4	一人親		
5	子育て、特に子どもの躰の方法について	子育てサロンなどを通じて、親の体験談を語り合う会を開く	保育園、幼稚園など地域の関係者
6	過保護、過干渉、子どもに負の体験をさせたくない	親子のコミュニケーションを深めることで自ずと見えてくることは多い。仕掛けていくことが必要。年に何回か親子で本を読み、親子で話し合う。読書の種まきプランを推進 保育園、学校で掲げられる生活目標を家庭でも、意識を持ってもらうよう工夫する 子育てサロンの活用 躰のワンポイントとしてテーマを設定。意見交換をすることでアドバイスになれば良い。	市、地域
7	養育目標が曖昧		
8	躰の方向が見極められない		
9	躰を軽視、方法がわからない。時として暴力に頼る		
10	基本的な生活習慣、常識が確立されていないので子どもに伝えることが出来ない		
11	躰を教えられない		
12	躰方法を親が知らない		
13	子どもの躰方法を親が知らない		
14	養育目標をもっていない親が増加		
15	基本的な生活習慣、躰が出来ていない		
16	親としての能力が低下している		
17	暴力に頼らない表現方法の体得		
18	『人権の視点を持って、子どもに向き合う(=子育てする)』ことを学ぶ	子育ての学習講座を開く ・カウンセラーをファシリテーターにする ・クローズドの小グループ制 ・2週間に1回ぐらいのペース ・数回の連続学習会で1つの講座とする	市、NPO
19	子育ての最終目的となる人間像を皆で共通理解(共有)していく【躰、道徳、感謝、協調性などが価値あるものとして、認識されることを目指す】	広報啓発を繰り返し行う	市
20	子どもに躰を教えない、教えられない親	訪問型の家庭教育支援の実施	市
21	子どもの強調性や感謝の気持ちを持たすことが出来ない	体験活動の場の提供・親子スポーツ教室の開催	市、地域
22	子どもの基本的な生活習慣を身に付けていない	毎日の生活の中で繰り返し教えることが大切	家庭、地域
23	親としての能力が低下している(教育力を含む)	子育て支援ボランティアの活用・PTA活動の活性化	市、家庭、地域
24	養育目標を持っていない親が増加	携帯電話を活用した情報発信	市
25	躰を教えない、教えられない	産前産後の〇〇教室の義務化と内容の充実 「子どもを育てられる大人になるために・・・」 中・高教育の見直し	県、市 (病院との連携)
26	コミュニケーション不足		県、市

27	暴力で躾をする親	暴力による躾は決して良くないこと。やがてそのようにして育った子は、他人に暴力を振るうことを啓発する。	市 広報によるPR・子育て講演会の開催 (大切なのはシンプルに・継続的に啓発すること)
28	子どもの自尊感情を育成出来ていない	どのようにすれば、子どもの自尊感情が高まるかを啓発する。	市 広報によるPR・子育て講演会の開催 「自尊感情を高めることが大切である内容について、看板等を立てる」
29	ルールが守れない	秩序というもの、モラルということを身に付けさせ、子どもに教えられるようにする。	親育て実行隊のような体制をつくる。
30	子どものことに対して責任が取れない	放棄と逃げを防ぐことをしていく。子どもを作った事の責任重大さを自覚させる。	
31	子どものいる生活で、生活文化が作れない	子どもには家庭での生活が第一であり、生活の中での家庭の絆ときまりを考え作らせていく。	
32	子育ての良さを見つけられない	自分の子どもと親である自分に誇りをもてる生き方を見つけ出させる。	
33	自分の親や人や地域に頼れないでいる	人は一人ではないという意識から、子育ては親だけでは無理なところがあるので、色々な人の力をもらえるようにする。	
34	子どもに関わり合う家庭力	家庭力育成のための研修会など	市、教育機関、その他

③親自身の社会性の欠如

4つの課題・支援方法

番号	課題	支援方法	主体	委員
1	子どもの居場所づくり	キッズクラブや放課後教室	地域団体に働きかける	竹内
2	乳幼児期から人との関わりの中で心を動かす経験が少ない	子育てサロン・子育て支援センター、地域の担い手により推進していく。		竹内
3	(親・子ども)居場所づくり、交流・体験不足、個人志向、地域との希薄な関係	通学合宿、ハリキリンピック、子ども会(育成会)(夏祭り等)地域行事への参加	青少年育成会議・各自治会・まちづくり協議会	小島
4	社会性のある子育てが困難	テーマを設けて、基調講演と演者を囲んで話題提供者によるパネルディスカッションの公開トークの集いを実施。例えば市内まちづくりセンターなど数ヶ所	青少年支援の会・地域の方々	妹背
5	社会、地域、集団、他社を軽視し、関わりに対して拒否的	未熟な親と共通する。出来るだけ早い時期からの教育により身に付けていく。 親と子が共に学べる機会が作れたら良い。 地域で親子で参加できる企画を計画し、目標と方向性を持って継続的に実施する。 地域のつながりを強化する工夫をそれによって解決する問題は少なくない。	国、県、市、地域	浮田
6	社会、地域等のルールに対し無関心			浮田
7	社会人としての認識、常識に欠ける			浮田
8	自分のエリアのみが大切(個人主義)			浮田
9	世間との関わりが子どもの教育、躰につながることに気づけない。			浮田
10	親自身、人との関わり方がうまく出来ない	地域の行事、育成会等の見直しの中で、親同士の人間関係を深める。または、どうやって人とかかわっていくか、人との関わり「わづらわしさ」ではなく「楽しさ」を経験できるような組織作り、行事の改革。	育成会 PTA スポーツ少年団親の会	河野
11	親の個人的志向が強い。	同じくPTAの中で、同上のようなことを経験できるように見直していくプロジェクト		河野
12	自己中心	スポーツ少年団の親に対して、モデルになってもらえるような気持ちのよい人間関係作りへのチャレンジ		
13	地域での役割を嫌う親	気軽・楽しい 研修・見学	市・地域	塚本
14	気軽に本音で相談出来る人がいない			塚本
15	地域に馴染めない			塚本
16	心を動かす体験、経験が少ない			塚本
17	地域活動で参加出来る機会がない			塚本
18	地域で集団として存在することの利点を体験する	例えば、防災防犯を目的にしたネットワークを地域で育てる(目的はきっかけである)	市・地域・個人	井上
19	行き過ぎた個人志向を改める			井上
20	地域での子ども育成が出来ていない	PTA活動の活性化・地域コーディネーターの配置	市・地域	廣井
21	地域における連携不足	地域交流事業の実施・地域コミュニティの再生・地域コーディネーターの配置	地域	廣井
22	コミュニケーションが苦手	まちづくりセンターでの世代間交流事業の実施・子どもサロンの開設	市	廣井
23	基本的学力の低下	教育相談・教師の補充が必要・ボランティアの補助教員制度の採用	市・NPO・地域	廣井
24	信頼出来る大人がいない	大人の学びの場の提供・地域教育力となる人材養成	市・地域	廣井
25	個人的志向が強い	集団行動・経験を増やす(学生時代のクラブ活動・奉仕作業)	市	川本
26	地域社会・親同士 連携が希薄	自治会活動の充実・各学年のひびきあい活動の実施・地区懇談会の充実	市(学校・園)	川本
27	集団の中に入らない親子	子ども同士の友だちつきあいから親の友だちづくりを進める。	市・地域	佐々木

28	親の個人的志向による協調性の欠乏	親の人間性、人格を変えることは難しい。精神修行から始めないと無理	市・地域	佐々木
29	当たり前のルールを自己中心的に判断している			佐々木
30	地域活動の情報等に関心をもたない	子どもを引きづり出して、親を参加させる手だてを作る	市・地域	佐々木
31	気軽に挨拶がかわせる地域の雰囲気	ごく普通にあいさつが出来る雰囲気づくり	地域、個人、学校、その他	松浦

④地域社会の支援の場不足

4つの課題・支援方法

番号	課題	支援方法	主体
1	特別支援が必要だが受けていない子どもがいる	親、学校、行政との連携を取る	発達支援センター・保健センター・あすくる
2	人材不足	コーディネーター	
3	相談相手・場所		あすくる他
4	基礎学力		あすくる他
5	外国籍・言葉の壁		さくら教室
6	発達障がい(特別支援)		発達支援室・ことばの教室・特別支援教室
7	親や子(家庭)に対する支援の場	親が子に読み聞かせをする方法を学ぶ会を開く	図書館関係
8	親の経済的事情で子どもと向き合う時間が少ない	保育園・学校は、家庭の実情を一番把握し易いのではないかと様々な関係機関と連携するシステムは既にできているので、強化しもっと機能させる。教師の負担にならぬように人員の配置を増やす。 親が相談し易い処(人)はどこ(誰)なのかニーズを調査市独自の電話子育て相談システムを設ける。気軽に利用できるよう、常にアピールする工夫を。 年齢を問わず、誰でも好きなときに立ち寄れる交流の場をつくる。	市、地域
9	子育てに悩む親のサポートの場が不十分		
10	親の精神的支えになる他者の不在		
11	地域とかかわる方法がわからない。また馴染めない		
12	様々な理由で家庭が子どもの心地よい居場所になっていない		
13	支援の場が少ない	昔に比べると格段に場所は増加しているが、本当に求められている支援なのか…。同じような内容のものが多い気がする。支援の場が、きっかけは集団で集まる場から、個人の悩みを支援できる場所へ提案できるシステム作り。	プレイステーションから、もっとしっかり親が話せる場所へ…
14	経済的に厳しい家庭	就労相談	市
15	母子家庭・父子家庭が増えた	助成・支援	市
16	発達障がい児童に対する人材	福祉	NPO他
17	外国人ということで受ける偏見	さくら教室	市
18	心の整理を手伝う他者の不在	相談窓口	市
19	未熟な親に届く言葉を持つ (未熟な親を理解させ、納得させ、行動の変容をおこさせるまで、程よい距離を保ちながら)	支援員だけではなく、地域の住民も含めた研修	市、地域
20	親と子へのサポートが不十分(体験・経験不足)	体験活動の場の提供	市
21	経済的に厳しい	働きながら子育てしやすい職場環境の整備	市・企業
22	発達障がい児童に対する人材	特別支援学級の充実・ことばの教室	市
23	外国人に対しての教師不足	さくら学級の開設	市
24	親の精神的支えになる他者の不在	体験活動の機会と場の提供・ボランティアやNPO等による支援体制づくり	市・NPO・地域
25	発達障がいへの理解不足	発達障がいの正しい知識を啓発する。発達が遅れていると感じたときは、発達障がいを疑ってみて、適切な機関に相談をするよう啓発する。	市 広報によるPR・子育て講演会の開催・市の相談窓口のPR (大切なのはシンプルに・継続的に啓発すること)
26	地域に親のサポート拠点がない	出入りしても目の指さない安心して使える施設の設定と対応する人の選定	県・市・地域

27	地域に親のサポートを受け持つ人が見当たらない	自分の子どもと思って関われる経験と包容力のある人を探しだして協力してもらう	県・市・地域
28	障がい者・外国人籍の人たちの支援・情報が地域に行き渡っていない	地域の人たちの力をもらうために、正しい情報と行政の後押しを明確にアピールした方法を講じる	県・市・地域